

この号の内容

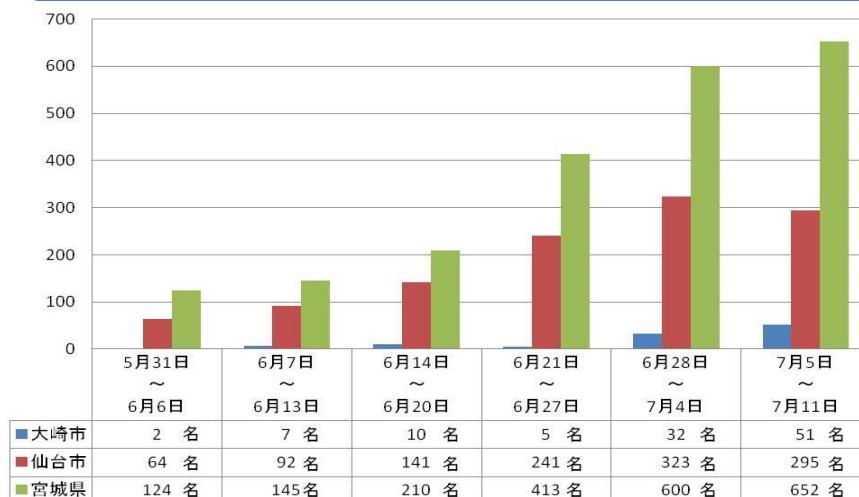
- 1 RS ウイルス 宮城県内で流行傾向
- 2 院内での感染症発症届出方法改定のお知らせ

RS ウイルス 宮城県内で流行傾向

現在宮城県内で RS ウイルスが流行傾向にあります。RS ウイルスによる感染症は 5 類感染症（定点把握）に分類され、流行や蔓延防止するように監視している疾患の一つです。この RS ウイルスは 1 度の感染では完全な免疫が獲得できず、何度も感染と発病を繰り返し事が特徴としてあげられ、非常に強い感染力と相まって幼稚園や保育園での集団感染の発生が数多く報告されています。症状としては 39 度台の発熱や鼻水、咳嗽等の上気道症状を引き起こすことが知られています。現在 RS ウイルスに対する抗ウイルス薬は存在しないため、感染経路を遮断する予防策が最も重要と言えます。この RS ウイルスの感染は①接触感染②飛沫感染により伝播するため、手洗いやマスク着用、ドアノブ等の環境消毒実施が有効な予防策と言えます。昨年より国内で流行している COVID-19 対策で上記予防策を実施していると思いますが、より一層の注意が必要です。

成人が RS ウイルスに感染した場合、その殆どが風邪であると判断や診断され、RS ウイルス感染症と認識されません。実際に自身が風邪であると過信した医療従事者より、患者へ RS ウイルスをアウトブレイクさせてしまった事例も数多くありますので、体調のすぐれない際には所属長へ報告し勤務の見合わせをお願いします。

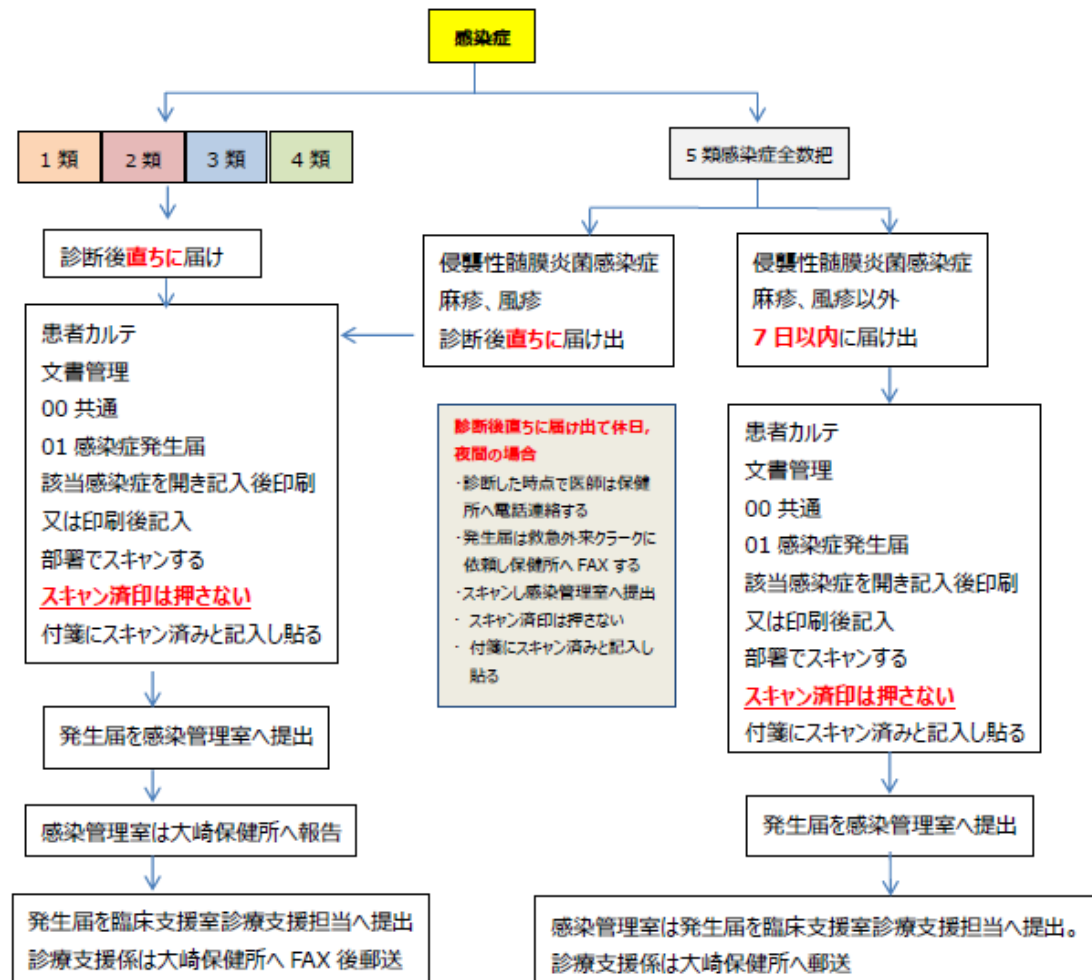
宮城県内 RS ウイルス感染症発症者人数推移



院内での感染症発症届出方法改定のお知らせ

すでに6月29日にグループウェア上でお知らせしている通り、7月1日より感染症発生届出の運用方法が変更となりました。細かい変更点は多数存在しますが、大きな変更点として挙げられるのは保健所からの問い合わせ時への対応策です。従来までの運用では保健所に届出が提出された情報を病院側で一元管理がされておらず、保健所からの緊急性の高い問い合わせがあった際に素早い対応が取れませんでした。今回の改定により届出に関する情報は一度感染管理室へ集約され一元管理されます。また感染症届け出はスキャン実施後に、スキャン済印を押印しない等の細かい規則もありますので医師のみならずその他職種のスタッフも一度確認をお願いします

結核の届けでは別フロー参照



注意：発生届けは県へ提出する公的書類のためスキャン済印は押さない